

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東久留米市中央町1-2-4
園名	東久留米市立ちゅうおう保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

『音』
乳児クラス (全身を使って音に触れる)
幼児クラス (いろいろな音に興味を持つ。音を感じる)

<テーマの設定理由>

(乳児クラス)
音楽や体操が好きで、身体の発達もハイハイから歩行まで様々な子がいる中で、音を出す事を楽しく共有し合える場を増やし、共感関係を広げ、興味関心を高めていく。
(幼児クラス)
ポータブルスピーカーがベース音によって振動していることに気付いた子どもが、音によってさまざまな揺れ方をしていることに興味を持って、観察し触れようとしていたことから想起した。音を「聴く」だけでなく、音を「見る」「感じる」ことも体感し、日常の生活音や音楽的な要素のあるものを楽しむとともに、音による振動や音の成り立ちにも着目する。

2. 活動スケジュール

6月～7月
・夏まつりでの和太鼓の取り組み(5歳児)
・他クラスも和太鼓に触れさせてもらう。太鼓以外の物でも音を出してみる。
8月
・大きな音だけでなく、小さな音にも視野を広げる(幼児クラス)
10月～11月
・自然のなかにある音に気付き楽しむ(乳児クラス)
・デイキャンプでのスタンプを楽しむ(5歳児)
12月～3月
楽器に触れてみる。音を出す楽しさから、奏でる楽しさ、合わせる楽しさを感じる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
ポータブルスピーカー・マイク・ハンドベル・木琴・グロッケン・ミュージックベル・マラカス他

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

6～7月

・毎年夏まつりでの5歳児の取り組みである『和太鼓』、他の年齢の子どもたちも触れてみる。

8月

・大きな音だけでなく小さな音などさまざまな音に触れる。

11月

・自然の中の音に触れる。

・5歳児はデイキャンプのスタンプの中で音を楽しむ。

12月～3月

・様々な音に触れ、楽しさから奏でる楽しさ、合わせる楽しさへ

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

6～7月

・毎年夏まつりでの5歳児の取り組みである『和太鼓』を機に、実際にたたいてみて感じる振動や、音の響きを体感して興味を持った子どもたち。他の年齢の子どもたちも夏まつり後には触れる機会を持てたことで、音に対する興味が広がった。

8月

・大きな音だけでなく小さな音にも視野を広げ、『糸電話の会』として、幼児クラスで糸電話を体験してみた。

糸電話体験に合わせて、昔の電話を年代ごとに画像で紹介したことで子どもたちの興味関心が広がる様子が見えた。

11月

・秋には落ち葉が多い園庭で、落ち葉を踏みしめる音やパラパラと散らした音を楽しんだり、5歳児はデイキャンプのスタンプで、楽器を取り入れ歌に合わせて音を出す楽しさも経験した。

1月～

楽器演奏だけでなく低年齢のクラスでも音を奏でることに興味が出てきている中、身体を使いながら鳴らせる遊具を使い 楽しみながら音の違いを感じている姿があった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・大きな音から小さな音まで、様々な音を楽しんできた中で、興味関心が広がってきた子どもたち。ひとりで音を鳴らすところから、合わせる楽しさを感じられるような取り組みにつなげていくことで楽器を取り入れ歌に合わせて音を出す楽しさも経験した。その後、楽器演奏だけでなく低年齢のクラスでも音を奏でることに興味が出てきて身体を使いながら鳴らせる遊具を使い 楽しみながら音の違いを感じている姿があった。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東久留米市中央町1-2-4
園名	東久留米市立ちゅうおう保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

身体づくり
～遊びを通して身体の動きを促進する機会をつくる～

<テーマの設定理由>

時代の変化や気候変動により、子どもの遊ぶ環境も様変わりしている中、遊びや生活の中で身体づくりができるような機会を各年齢毎に子どもの姿から取り入れていきたい。

2. 活動スケジュール

6月～ 身体測定に合わせた日程で、室内でも様々な身体の動かし方ができるような遊具を設置し取り組む（各月継続的な取り組みにする）
10月～ 運動会後には園庭なども使用しダイナミックな活動に広げていく

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
マット・トンネル・平均台・パラバルーン・とびとびバランス・玉あて名人・バランスストーン

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

6月～
・暑さが厳しくなり始めた6月頃をスタートに、身体測定の日程と合わせ『カラダアップ』と名付け、ポイントラリー風に室内でも様々な体の動かし方ができるような遊具をホールに設置し、各年齢取り組む。
・0歳児クラスは部屋にマットやトンネルを設置する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・同じ遊具でも、年齢毎に子どもたちがイメージするものに合わせた組み立て方を工夫し継続していることで、子どもたちも見通しをもって取り組んでいる様子が見えている。
0歳児は、最初はトンネルの中に入ろうとしなかった子も、何回か設置する中で他の子につられて行く姿も見えた。
・秋の運動会後、『なかよしスポーツフェスティバル』と名付け、子どもたちリクエストの競技を中心に異年齢の交流をしながら、園庭にてダイナミックに楽しく取り組むことができた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・『カラダップ』は継続的な取り組みにしてきたことで、子どもたちも自分たちで見通しを持てる活動になってきた。毎回、子どもたちの興味関心のあるテーマに添った組み立てにしたり、特に幼児クラスは、同じポイントでも自分で考えた動きを取り入れたり、難易度を上げて取り組みたいという意欲も見えた。また異年齢で活動した時には、幼児クラスの動きを乳児クラスが真似してみたり・・・と動きにも幅が出る様子が見えた。